

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

| 令和3年度 魚津高等学校アクションプラン -1- | | |
|--------------------------|---|--|
| 重点項目 | 学習活動 | |
| 重点課題 | 生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実 | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none">生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業、公開授業や授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。生徒には入学当初よりオリエンテーションなどをおして、家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。 | |
| 達成目標 | ①授業力の向上 ア 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合 イ 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合 | ②1,2年の1日あたりの平均学習時間(平日休日を合わせた平均) ア 平均学習時間 イ 平均学習時間が2時間を超える生徒の割合 |
| | 80%以上 | ア 3時間以上 イ 80%以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none">互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。 | <ul style="list-style-type: none">「生活状況調査」を実施し、担任が生徒の生活実態(予習→授業→復習の黄金のサイクルができているか)を把握し、効果的な面接指導を行う。また、調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方について工夫する。 |

| 令和3年度 魚津高等学校アクションプラン -2- | | |
|--------------------------|---|---------------------------------------|
| 重点項目 | 学校生活 | |
| 重点課題 | インターネット関連の正しい利用について | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none">生徒は、ほぼ100%近い割合でスマートフォンを所有している。You Tube、Instagram、ゲームなどの利用率が高く、利用時間も一日2~3時間となっている。また、顔が見えない人とやりとりが行える SNS の利用から、犯罪につながったり、巻き込まれたりするという危険も高まっている。学校では、スマートフォンの持ち込みは許可しているが、校地内での使用は禁止している。校内では電源を切って鞆や鍵付きロッカーに保管する規定になっているが、お昼時間や放課後などにこっそり使用している生徒がおり、発見し次第その都度指導を行っている。インターネット使用上の正しい知識や使用上のモラル、サイバー犯罪から身を守るための指導として、情報の授業や警察署、電話会社などによる安全教室等を開催し、実践力を養うよう指導している。昨年度のアンケート結果から、スマートフォンの利用が学習時間や睡眠時間の妨げになっていることを生徒達は自覚している。 | |
| 達成目標 | ①スマートフォンの利用が学習時間や睡眠時間の妨げになっていると答える生徒の割合を30%以下とする。 | ②インターネット関連を安全に利用したと答える生徒の割合を80%以上とする。 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none">健全な高校生活を送るための基本的な生活習慣の確立を考えさせるとともに、SNS等の利用方法や危険性について指導し、自己と他者の安全確保のため、個人情報保護の概念を理解させる。学習時間や睡眠時間を妨げない利用の仕方について、クラス目標や個人目標を考えさせ、自主的自律的な態度でスマホを利用する強い心構えを構築させる。学期末にアンケートを実施し、自己評価と計画の修正を図り、意識の継続を図る。P T A総会や各学期の保護者会等で、「スマホ家庭のルール」について実践例を示し、ルール設置を要請する。 | |

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン -3-

| | | |
|------|---|----------------------------------|
| 重点項目 | 進路支援 | |
| 重点課題 | 生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導 | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための目的や将来のビジョンが明確でなく、そのために具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。 ・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。 | |
| 達成目標 | ①第1志望大学合格率 (出願時の第1志望合格者の割合) | ②早期の進路目標の設定 (志望大学・学部・学科などの設定) |
| | 合格率 65%以上 | 2年次終了時で生徒の割合 85%以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。 ・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。 ・「進路探究」や「生徒希望選択研修」などを通して進路を考えさせる。 ・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。 | |

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン -4-

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | 特別活動 | |
| 重点課題 | 生徒の自主的・自律的な活動の充実 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の学校行事の運営 ・部活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活・学習環境の向上 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の実施が困難な中で、生徒の自主性や主体性を発揮する場が少なくなっている。 ・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動において、率先して活動を行う生徒が多い反面、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。 ・教室内で、机の近辺に荷物が無造作に置かれている場合がある。 |
| 達成目標 | ①学校行事に主体的に参加し協力したことについて、達成感を抱いた生徒の割合。 | ① 保健委員による清掃点検などとおした美化意識の向上。 |
| | ②学習と部活動の両立を図りながら、積極的に部活動に取り組んだことについて、達成感を抱いた生徒の割合。 | ② 生徒個々の校内環境を良くする意識の向上。 |
| | 80%以上 | 保健委員が美化に関するアイデアを出し、実行する 1回/学期 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が主体となって、生徒がより積極的に学校行事に参加できるように、できる限り工夫をする。 ・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間の有効活用を促すことによって、部活動の活性化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・美化週間中の放課後に、保健委員が教室を巡回し、美化・整頓がなされているか点検する。 ・授業終了後に、各自が身の周りの整理整頓や机椅子の整列を行うとともに、放課後に、日直や保健委員が翌日の授業に向け、教室全体の整備を行う。 |

令和3年度 魚津高等学校アクションプラン -5-

| | | |
|------|--|---|
| 重点項目 | その他 | |
| 重点課題 | 図書貸し出し冊数の増加 | 生徒希望選択研修の充実 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣が身につけていない生徒が少なからずいる。昼休みや放課後に図書利用で来館する生徒は一部の生徒に固定しつつある。時期によっては学習室として閲覧室を使う生徒が多くなる。例えば2学期以降は、3年生が小論文・面接のための資料探しや読書、また学習室として使用する機会が増える。 ・教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用もあまり多くない。 ・保護者対象の図書館開放を年数回実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2 学年生徒が対象で、生徒は自身の進路や関心に応じて希望する研修を選択して参加する。 ・進路に対する意欲・関心を高めることを目的とし過去8回実施されたが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。今年度は研修実施の実現を目指し、感染拡大地域を避け、県内の大学を中心として研修先を探している最中である。 ・令和元年度の実施では、各研修の目的・目標を達成することができたという割合は97%で、設定目標を大きく超えた。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の平均貸し出し冊数3冊 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修先等の関係者と感染症拡大防止対策を講じて、研修を実施する。 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。 ・2年次に実施される生徒希望選択研修の事前研修での利用を促す。 ・HR、「総合的な探究の時間」での活用を促す。 ・生徒の興味・関心をとらえた企画展示や広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本をそろえる。 ・小論文対策のレファレンス機能の充実を図る。 ・保護者の図書館利用を促す。 ・教職員に対しても図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらえる機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路・適正などを勘案し、最適な研修を選択・受講させる。 ・事前研修の充実を図り、生徒が自主的・主体的に取り組めるように、個々人の意識を高める。 ・研修後にまとめ集を作成したり、プレゼンテーションを行ったりすることで、他者と協働して、収集した情報を整理し、まとめ、発信する技能を高める。 |

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)